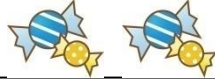


# プラスワンチャレンジ解答と解説 4年 ともなって変わる量

次のような「ともなって変わる量」があります。

10個のあめを兄と妹でわけます。兄のあめと妹のあめの数はどのような変わり方になっているのでしょうか。



この問題の答えとしてよいと思う文を1つ選び、その理由を表や式などを使って説明しましょう。

(  ) 2つの数を合わせると、いつも同じ数になる。 (50点)

(  ) 一方の数が2倍、3倍・・・になるとき、もう一方も2倍、3倍・・・になる。

(  ) 一方の数が「1」ふえると、もう一方も「きまった数ずつ」ふえる。



## 選んだ理由 (50点)

あめは全部で10個なので、兄の数がふえると下の表のように妹の数はへっていく。つまり、この問題は「ふえるとへる」変わり方なので2番めと3番めはちがうことがわかる。また、兄のあめの数を□、妹のあめの数を○として、式に表すと  $\square + \bigcirc = 10$  となり、答えはいつも同じ数になるので、一番上を選んだ。

兄のあめの数と妹のあめの数

兄のあめの数□(こ)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
妹のあめの数○(こ)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

**解説** ともなって変わる量には、「ふえるとふえる」「ふえるとへる」「へるとふえる」「へるとへる」という変わり方がありますね。今回は二つ目の「ふえるとへる」です。□と○を使って式に表して考えてみることも大切です。今回の数学者はアメリカのベンジャミン・パースという人です。

